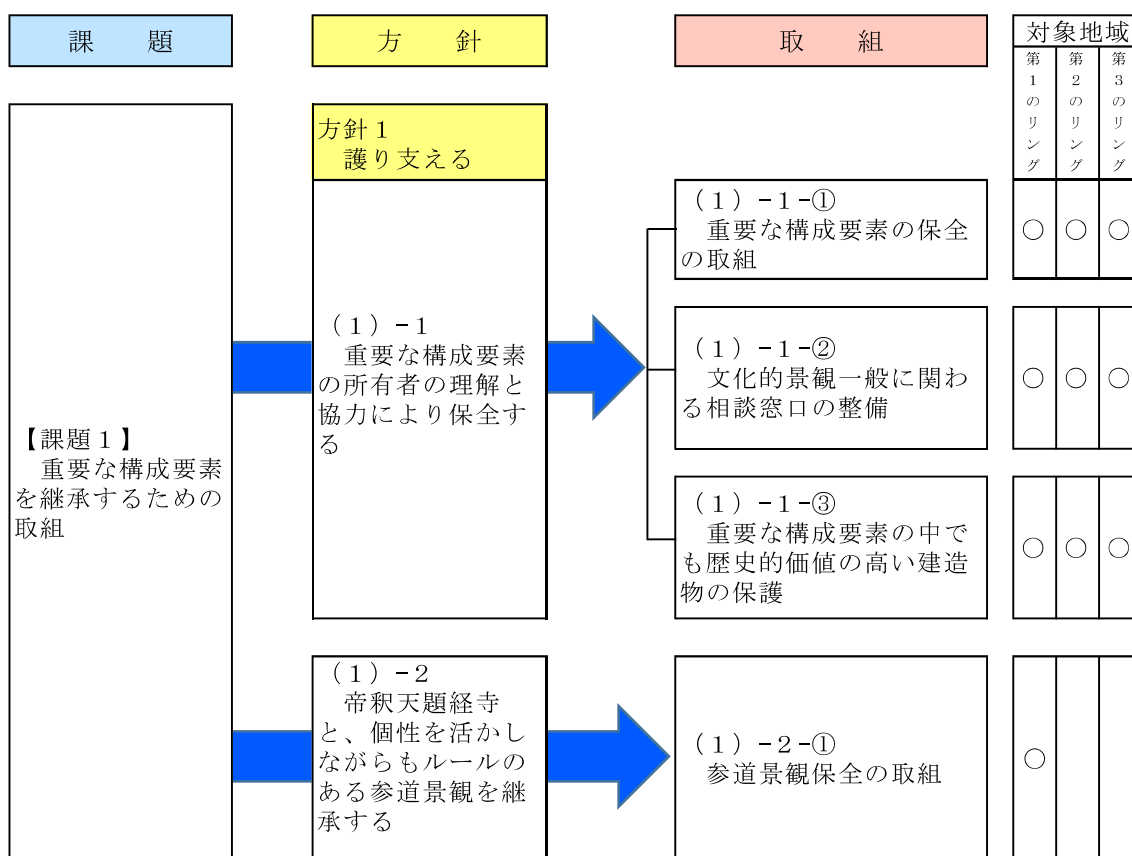


第5章 事業計画

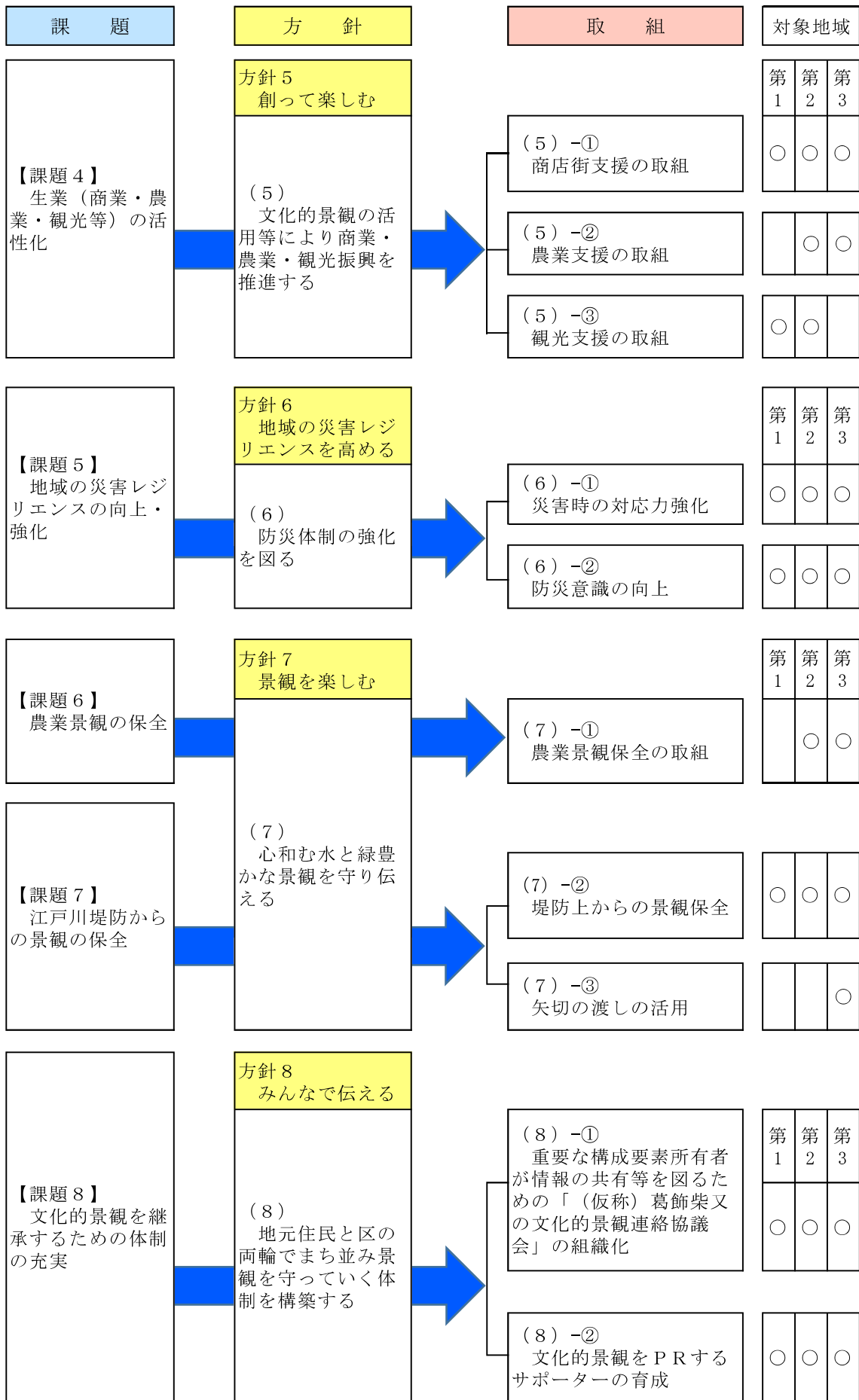
第3章で示した整備活用に向けたそれぞれの課題について、解決するための事業計画を立案する。

1 事業の構成

事業の構成は以下のフロー図に示すとおりである。



課題	方針	取組	対象地域			
<p>【課題2】 地域住民の文化的景観の理解と地域内外への周知</p>	<p>方針2 知って楽しむ</p>	<p>(2)-① 内外に向けた普及・啓発事業（誇りの醸成）</p> <p>(2)-② 文化的景観保存活動への支援</p> <p>(2)-③ 文化的景観に係る調査研究</p> <p>(2)-④ 柴又特有の伝統行事の継承</p>	第1 ○	第2 ○	第3 ○	
	<p>(2) 文化的景観の価値と魅力を周知する事業を充実させる</p>		○	○	○	
	<p>方針3 歩いて学ぶ</p> <p>(3) 「水」と「歩く」が一体化した景観を保全し、回遊性を向上させる</p>		第1 ○	第2 ○	第3 ○	
	<p>(3)-① 柴又用水跡の活用</p> <p>(3)-② 国分道、中通り、帝釈道の活用</p>		○	○	○	
	<p>【課題3】 柴又街道の拡幅整備事業の機会を捉えた景観整備</p>	<p>方針4 道路整備事業との調和</p>	<p>(4)-① 歴史的意味を伝えるサインシステムを構築する</p> <p>(4)-② 柴又街道との交差点部における参道の連続性の保持</p> <p>(4)-③ 21世紀の参道の創出</p>	第1 ○	第2 ○	第3 ○
		<p>(4) 道路整備事業に係る重要な構成要素や景観保全のための取組を進める</p>		○	○	○
		<p>(4)-② 柴又街道との交差点部における参道の連続性の保持</p>		○	○	○
		<p>(4)-③ 21世紀の参道の創出</p>	○	○	○	



2 事業の取組

方針1 護り支える

(1) -1 重要な構成要素の所有者の理解と協力により保全する

取組(1)-1-① 重要な構成要素の保全の取組

一部の建造物で雨漏りや外壁の老朽化が見られ、外観だけでなく建造物の保存が困難となる可能性があるため、助成制度を実施しながら重要な構成要素の適切な維持管理を進める。修理や修景、防災設備等の設置等を行う場合についても、文化的景観としての価値を保存する必要があり、保存計画に記載された保存要件の内容に沿って、推進委員会等での検討・協議を行いながら事業者と調整を図る。

- 帝釈天題経寺諸堂及び境内地の修理及び修景への支援
- 重要な構成要素の修理及び修景への支援

取組(1)-1-② 文化的景観一般に関わる相談窓口の整備

建物の修繕等を行う際、仕様が固まった段階で届出が行われ、計画内容の変更が困難となることを防ぎ、計画の早い段階で相談が行われるよう、手続きの流れを周知する。また、文化的景観一般に係ることについて、気軽に相談できる窓口を設置する。

- 文化的景観一般に関わる相談窓口の設置・周知

取組(1)-1-③ 重要な構成要素の中でも歴史的価値の高い建造物の保護

重要な構成要素のほとんどは、個別の文化財として指定されていない状況にある。継続的な調査のもと、価値が認められた貴重な建築物等については指定を行うことで保存を推進すると共に、所有者等の保存活動への機運を高める。

- 保護すべき貴重な建造物のリスト化

(1) -2 帝釈天題経寺と、個性を活かしながらもルールのある参道景観を継承する

取組 (1) -2 -① 参道景観保全の取組

参道周辺における開発行為等の現状変更については、柴又地域景観地区、柴又まちなみ景観ガイドラインに定められた基準、保存計画に定められた方針に基づき誘導を図っている。帝釈天題経寺（二天門）への通景を保存するためには、運用も含めた既存の仕組みの充実を図る。

加えて、重要な構成要素の保存を図りながら、耐震や防火の性能を向上させるための仕組みを、地域住民と議論しながら検討を行う。

- 既存の条例・ガイドライン等の運用
- 新たな保全策の検討

方針2 知って楽しむ

(2) 文化的景観の価値と魅力を周知する事業を充実させる

取組 (2) -① 内外に向けた普及・啓発事業（誇りの醸成）

文化的景観の保存や整備に当たっては、地域の方々の理解の下、自発的な取組が求められる。これまで、葛飾区郷土と天文の博物館のホームページや文化的景観ニュースを発行し周知を図ってきたものの、より多くの地域の住民や来訪者が、より深く文化的景観の価値と魅力を理解するための取組が求められる。

そのため、文化的景観の持つ価値と魅力について、地域の内外に向けて発信すると共に、さらなる周知を図るための広報施設の拡充についての検討を行っていく。

- 柴又らしさを共有し、後世に伝えていくためのスローガンづくり
- 区内小中学生に向けた啓発活動の実施
- 江戸川等柴又と水との関わりを深掘りする事業の実施
- 文化的景観の紹介

取組 (2) -② 文化的景観保存活動への支援

重要な構成要素の保全にあっては、所有者の理解と協力が不可欠である。所有者が景観保全に当たり日頃抱えている悩み事について、相談を受けるための体制を確立すると共に、所有者に対して適宜訪問を行う等、コミュニケ

ーションを深めることが重要である。また、景観保全のための活動に対しては、奨励金を支給する制度の創設等により、行政として支援を行っていく。

- 重要な構成要素所有者への支援

取組（２）-③ 文化的景観に係る調査研究

保存計画策定時に実施した調査に基づき、「葛飾柴又の文化的景観」の価値や重要な構成要素の選定等を行ったが、それで全てが明らかになったわけではなく、保護の対象を拡大していくことも重要である。葛飾柴又の歴史的・文化的な価値について継続的に調査を行い、新たな葛飾柴又の魅力を発見し、重要な構成要素の追加等を通して、「葛飾柴又の文化的景観」の価値を高めると共に、内外にその魅力を発信していく。

また、重要な構成要素の中でも葛飾柴又ならではの伝統を保持し、歴史的・文化的な価値が高いものについては、文化財指定に向けた調査を行っていく。

- 葛飾柴又の歴史的・文化的価値の調査の継続

取組（２）-④ 柴又特有の伝統行事の継承

地域に古くから伝わる柴又特有の伝統行事や祭り等については、少子高齢化等により、若い世代の参加者が減少傾向にある。エリア内の地域の結びつきを強めることにも繋がるため継承を図っていく。

- 地域の行事への支援

方針３ 歩いて学ぶ

（３） 「水」と「歩く」が一体化した景観を保全し、回遊性を向上させる

取組（３）-① 柴又用水跡の活用

柴又用水跡は観光客の回遊性を高めるポテンシャルを有しており、その価値のさらなる発信が求められる。文化的景観における他の要素との繋がりや、過去に用水として使用されていた面影等から、農村として栄えた歴史を中心に案内板を設置する等の取組を行うことで回遊性を高める。

- 柴又用水跡の整備

取組（３）-② 国分道、中通り、帝釈道の活用

旧道は柴又用水跡と同様、文化的景観としての価値のさらなる発信が求められる。帝釈天題経寺、参道や旧家、農地等、重要な構成要素を繋ぐものであることから、区域全体としての文化的景観の理解を促進することができる貴重な要素である。メディアを活用した情報提供やサインシステムのデザイン、パンフレットの作成により周遊を促す整備を行うことで、分かりやすく価値を伝える取組を進める。

- 国分道、中通り、帝釈道の整備

方針４ 道路整備事業との調和

（４） 道路整備事業に係る重要な構成要素や景観の保全のための取組を進める

取組（４）-① 歴史的意味を伝えるサインシステムを構築する

「第１のリング、第２のリング、第３のリングを繋ぐ歴史軸」、さらに「南部の新柴又駅方面から柴又帝釈天参道及び帝釈天題経寺の北部方面へ誘うアクセスルート」という視点を加え、選定エリア内に共通した意匠、沿道及び柴又街道の主要な交点において、その歴史的意味を明示するよう、地区全体に対して総合的にデザインされたサインの設置やメディア活用等の戦略的な情報提供により「新たな参道」という役割を付加することによって、「葛飾柴又の文化的景観」の選定エリア内の回遊性を高めることが期待される。

- 解説・誘導サインの設置

取組（４）-② 柴又街道との交差点部における参道の連続性の保持

柴又街道が縦断する交点のうち、重要な地点である参道との交差点については、四隅に位置する店舗が拡幅工事によって、重要な構成要素の保存すべき要件が損なわれないように配慮すると共に、店舗外面の意匠及び柴又街道に面した妻側の意匠に配慮することが求められる。さらに都道沿いの参詣客等歩行者の利用増加や安全性確保も考慮した道路デザイン等により参道の連続性を確保する必要がある。また既存の鳥居型のアーチについても、景観的に配慮した配置位置の検討を行っていく。

- 参道の連続性の保持

取組（４）-③ 21世紀の参道の創出

帝釈天題経寺には、江戸川からのアプローチ、国分道・帝釈道からのアクセス、帝釈人車鉄道柴又駅、そして柴又駅開業後に形成された現在の参道がある。このような水陸の多様なアプローチがそれぞれの時代に創出されてきたことが柴又のダイナミックな魅力を形作ってきた。今回の都道拡幅は、3つのリングを繋ぐ歴史軸であると同時に、新柴又駅から帝釈天題経寺はもとより文化的景観の重要な各要素へ誘う新たな参道の役割を持たすことができる。

- 新たな参道としての誕生

方針5 創って楽しむ

（５） 文化的景観の活用等により商業・農業・観光振興を推進する

取組（５）-① 商店街支援の取組

文化的景観の保存活用においては、商店街の維持と活性化が必要であり、新型コロナウイルスの感染拡大等の影響で疲弊している商店街に対して、行政としての支援が求められる。商店街が実施するイベントや施設整備にかかる経費を助成し、商店街の活性化を図ると共に、魅力の向上に繋がるような支援を行っていく。

- 柴又ならではの歴史的・文化的資源を活かしたPR支援事業
- 空き店舗の有効活用
- 商店街の賑わいの創出

取組（５）-② 農業支援の取組

農地は、かつて柴又が農村であったことを伝えると共に、災害時におけるオープンスペースとしての機能を有する面等からも保全・継承をしていくことが重要である。そのため、古くから続いている農地と参道店舗の密接な関係性を活かして、農家と参道が一体となって、地産地消が行える仕組みづくりや、葛飾元気野菜を活用したイベントやPR事業について検討する体制を構築していく。

また農業の継承の問題等についても相談支援体制の整備を検討する。

- 農地や柴又ならではの野菜を活用したPR事業
- 農地保全のための農家支援

取組（５）-③ 観光支援の取組

「葛飾柴又の文化的景観」を成す重要な要素である柴又の生業を保全していく上で、観光振興は重要な視点である。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を強く受けた柴又観光の回復を図り、持続可能な観光地柴又を築いていくため、柴又の魅力や強みを再確認すると共に、都内や近県からの近場観光の誘致、そして、将来的な国内旅行やインバウンドの回復を見据えた取組を進めていく必要がある。

葛飾区観光文化センター（葛飾柴又寅さん記念館・山田洋次ミュージアム）や山本亭、柴又観光案内所等の施設運営により全国的な知名度を誇る柴又の観光地としての魅力を高めていく。また、情緒ある柴又のまち並みの歴史的文化的価値等を「文化観光」的視点で深掘りして紹介したり、ウイズコロナ・アフターコロナの中で安心して訪れ楽しむことができる柴又散策の魅力を紹介する等、幅広い層への訴求を検討する。また、区と地元が協働で開催しているイベントや地元が主体となって実施しているイベント、又は帝釈天題経寺や柴又八幡神社の伝統行事等を効果的に発信し誘客に繋げていく。

- 観光拠点施設の運営等
- 観光イベントの実施

方針６ 地域の災害レジリエンスを高める

（６） 防災体制の強化を図る

取組（６）-① 災害時の対応力強化

帝釈天題経寺及びその参道付近は防火地域及び準防火地域となっている。このエリアで建築行為を行う場合には、耐火建築物又は準耐火建築物とする必要がある中で、重要な構成要素の価値を継承できるよう、必要な改修等を行う場合の手法を検討する。

- 重要な構成要素の災害時の対応力強化

取組（６）-② 防災意識の向上

仮に大規模地震等による火災が発生した場合に、景観への影響を最小限にとどめるため、帝釈天題経寺及び参道エリアの既存組織を中心に初期消火体制を共有し、柴又の景観資源を地域と守るための防災に係る周知等を行う。

- 防災・減災の取組

方針7 景観を楽しむ

(7) 心和む水と緑豊かな景観を守り伝える

取組(7)-① 農業景観保全の取組

かつて農村であったことを示す納屋や生垣が年々少なくなっている。生垣は、都市の中にあって貴重な緑でもある。残されているものも、建物の老朽化や、生垣の管理のための費用が課題となっているとの声もある。修理・修景等により維持し、継承を図ると共に、その魅力発信を進める。

- 旧家・農家の敷地境界装置（生垣等）の修景・維持管理

取組(7)-② 堤防上からの景観保全

区が行った住民等を対象としたアンケートやワークショップにおいて、江戸川は居住エリアに関わらず地元住民が共通で好きな場所と回答しており、参道と共に柴又の大切な軸の一つである。堤防上からは、周辺に高い建物が少ないため帝釈天題経寺・山本亭の薨や緑が見渡せ、河川敷は地域住民がスポーツを楽しみ、来訪者を含めランニングやサイクリングで幅広く使用されている。新八水路付近に自治会が花を植える等、地域のコミュニティ活動の場としても重要である。

柴又のゆったりとした雰囲気を感じる場所でもあり、堤防上から見える面としての景色を保全するための取組を行う。

- 帝釈天題経寺・山本亭の薨や緑等が見渡せる景観の継承
- 新たな保全策の検討

取組(7)-③ 矢切の渡しの活用

「矢切の渡し」は、下総との結節点を示すと共に、柴又の成り立ちやその歴史と深い関わりを持つ江戸川の流れを体感し、雄大な河川景観の魅力を感じられる重要な構成要素である。また、全国的にその名が知られ、多くの観光客が訪れる観光スポットでもある。そのため、来訪者が気持ち良く乗船体験をし、情緒あふれる渡しの風景を楽しむことができるよう、河川景観の魅力保全のために乗船場周辺の草刈り等の環境整備を継続すると共に、文化的景観の理解を深めるための取組を進める。

- 矢切の渡し周辺の環境整備

方針8 みんなで伝える

(8) 地元住民と区の両輪でまち並み景観を守っていく体制を構築する

取組(8)-① 重要な構成要素所有者が情報の共有等を図るための「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」の組織化

文化的景観は地元住民を中心に継承されてきたものであり、今後も地元住民と行政が一体となって保存の活動を進める必要がある。地域住民においては、帝釈天題経寺の参道店舗や旧家等の重要な構成要素の所有者が、柴又の景観に係る保存活動を行っているところである。

区から所有者への情報提供、意見聴取の機会をさらに充実させると共に、文化的景観の理解を深める取組や相互の活動への参加を促進することが重要である。

また、店舗等の修繕、生活・生業に係る課題を早期に把握し、課題を解決する必要がある。

このように文化的景観の周知や課題解決を進めながら、地元住民の核となる重要な構成要素所有者間で連携できる会議体の組織化を進める。

- 「(仮称)葛飾柴又の文化的景観連絡協議会」の組織化・運営支援

取組(8)-② 文化的景観をPRするサポーターの育成

文化的景観の保存に当たっては、重要な構成要素所有者のみならず、柴又の地元住民が積極的に保存・活用のための活動に取り組めるような仕組みが必要となる。整備計画策定に当たっての調査においても文化的景観に関するイベントに参加したいという声や、ボランティア活動を行いたい、文化的景観について理解を深め、実際どのように感じているか穏やかに話し合えるような機会を持つ活動を行いたいという意見が出されており、そうしたきっかけ作りを進める。

観光に訪れた方の意見も取り入れながら、地域全体で保全・PRを進める必要があると共に、それを担う人材の育成を行う。

- 普及啓発活動を担う人材の育成